

第104回 定時株主総会

平成20年9月29日

株式会社 アルバック

①事業の経過及び成果

■ 経営環境

▶ 日本経済:

- ◆原油価格高騰。所得低迷。個人消費は回復感に乏しい。
- ◆景気は減速の様相。

▶ 世界経済:

- ◆米国:サブプライムローン問題で金融不安。
- ◆資源価格高騰で物価上昇。景気低迷が顕著。

▶ アジア経済:

- ◆中国などアジア:国内需要拡大で堅調。
- ◆輸出環境の悪化。経済成長の減速懸念。

■ 事業環境

▶ FPD（フラットパネルディスプレイ）業界

- ◆台湾、韓国で設備投資計画の延期、凍結から在庫調整一巡で回復へ。

▶ 半導体業界

- ◆フラッシュメモリ中心に活発な投資。
- ◆需給バランス悪化でメモリ価格下落。
- ◆先行き不透明感が顕在化。



大画面テレビ

■ 事業環境

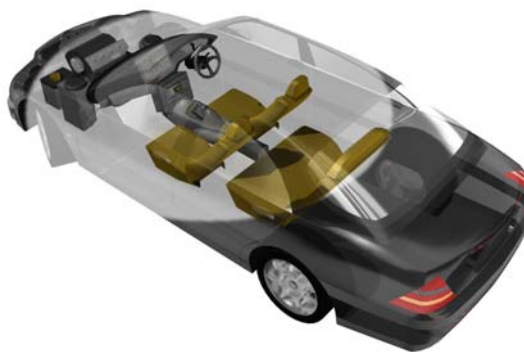
▶ エネルギー・環境関連

◆ CO₂排出量削減といった環境意識の高まり

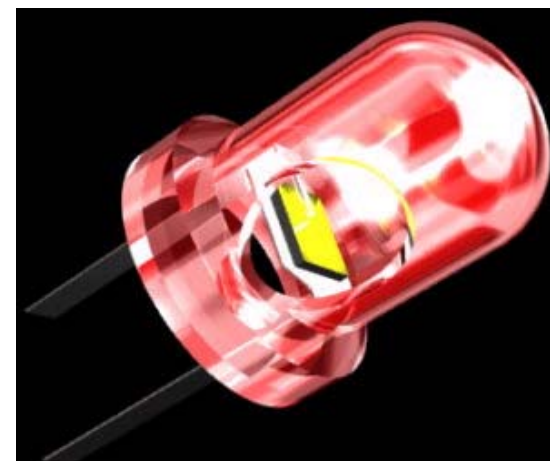
◆ 「エネルギー・デバイス」の需要拡大



太陽電池



ハイブリッド・カー



発光ダイオード

■ 当社グループの対応

▶ 営業活動

- ◆独創的な新製品を市場投入。
- ◆アルバックソリューションズで積極的な受注活動。

▶ 投資

- ◆中国、韓国、台湾へ投資。
- ◆「ポストFPD戦略」を見据え国内で投資。
- ◆新技術・新製品開発の積極投資。

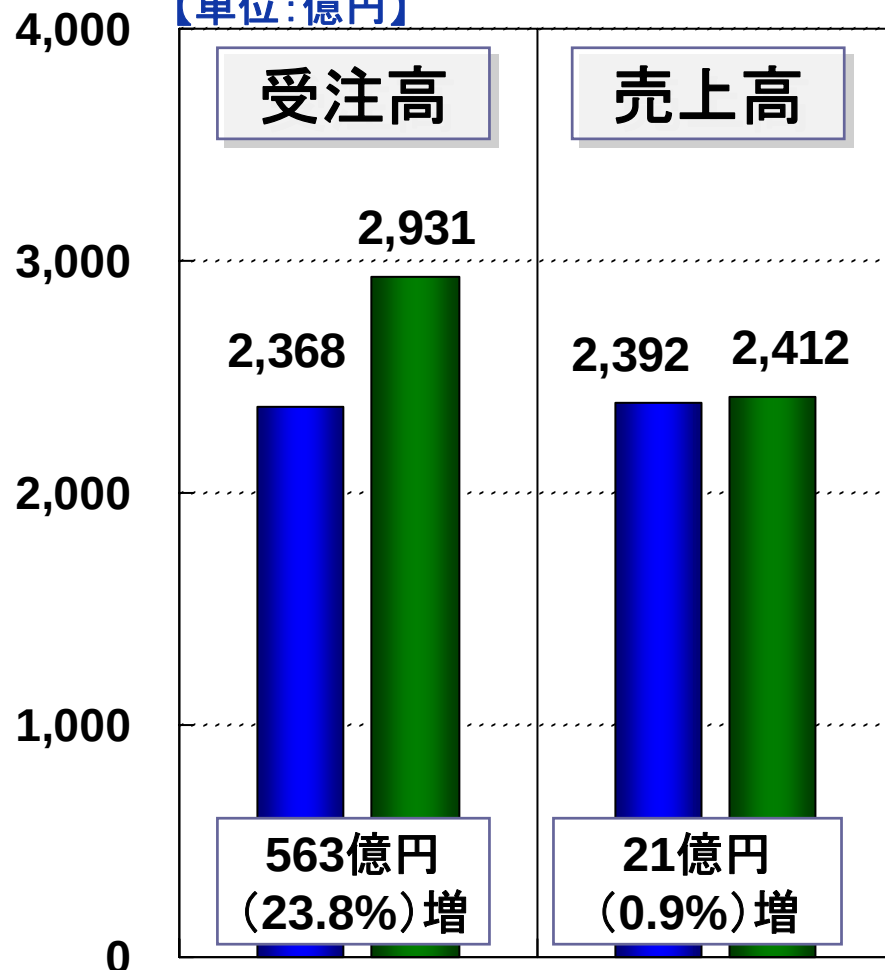
▶ 生産改革

- ◆生産改革の推進、グループ内垂直統合と内製化によるもの作り。

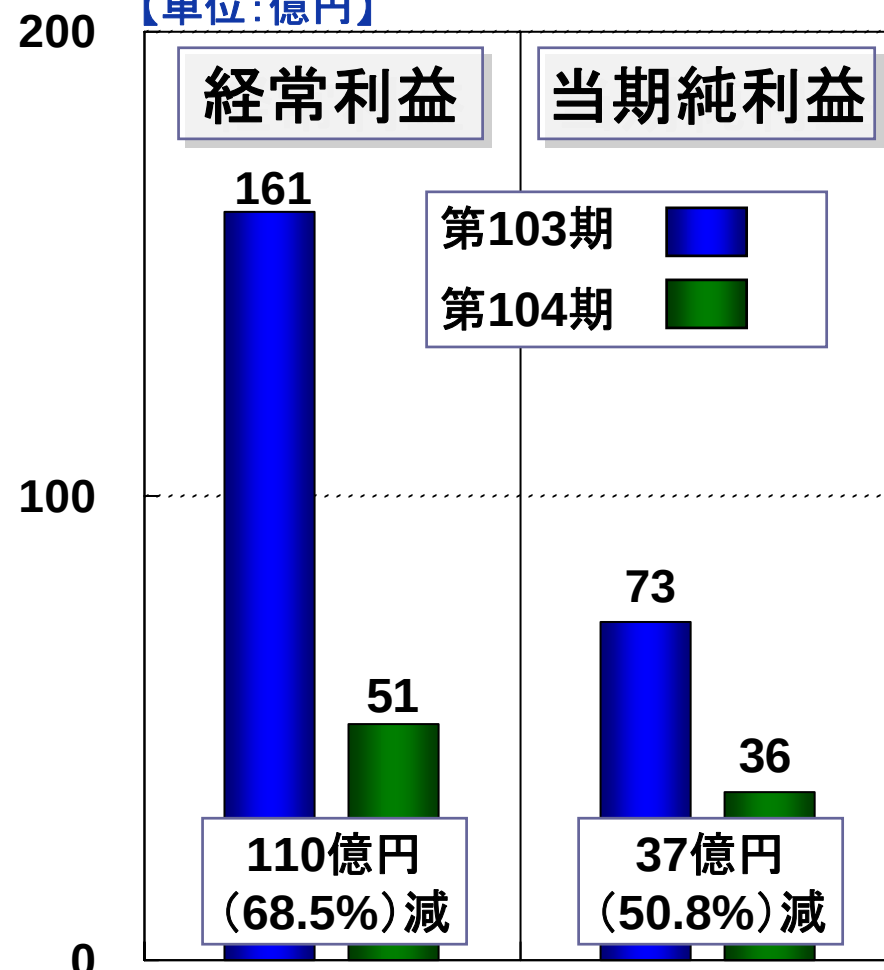
▶ 固定費の圧縮

第104期(H20/6期)業績(連結)

【単位:億円】



【単位:億円】



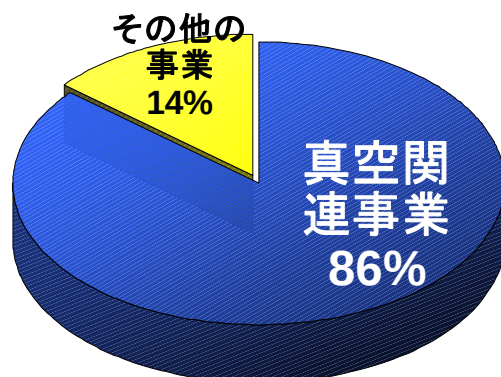
【()内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

企業集団の事業セグメント別状況

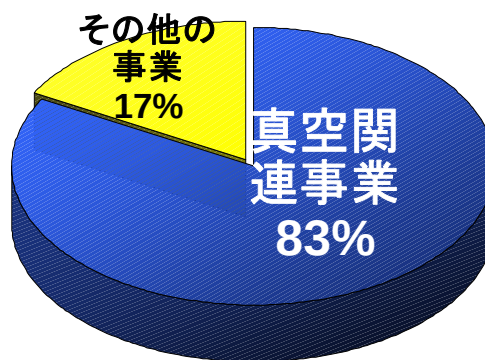
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業利益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空関連事業	2,520	124.1	2,005	97.0	84	1,625	144.3
その他の事業	411	121.7	408	125.4	△1	85	110.1
合計	2,931	123.8	2,412	100.9		1,710	142.1

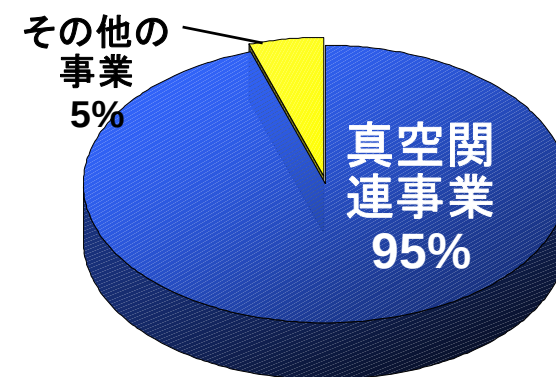
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

真空関連事業(1)

■ディスプレイ及び電子部品製造装置

▶ディスプレイ用装置

→アジア地域で売上堅調



大画面液晶TV用
枚葉式スパッタリング装置
SMDシリーズ



インライン式
スパッタリング装置
SDPシリーズ

▶電子部品製造装置

→ハイブリッド・カー向けの売上堅調



パワー半導体用スパッタリング装置
SRHシリーズ

▶大画面液晶テレビの設備投資が活発。薄膜太陽電池製造一貫ラインの受注、引き合いが急拡大。

真空関連事業(2)

■半導体製造装置

- ▶前半は設備投資の積極的な実施
- ▶後半は設備投資計画の一部延期

▶スパッタリング装置

→受注・売上堅調



ENTRON™-EXシリーズ

▶バッチタイプ自然酸化膜除去装置

→受注・売上堅調



RISEシリーズ

▶LED用エッチング装置

→受注・売上堅調



NEシリーズ

真空関連事業(3)

■コンポーネント

- ▶前半: FPD業界の設備投資計画の延期
→受注低迷



大型真空ポンプ



表面形状測定装置

- ▶後半: FPD業界の設備投資計画が回復
- ▶民生用真空ポンプは低調
- ▶一般産業分野向け真空ポンプ、計測器、太陽電池製造装置向け受注・売上が堅調



計測器

真空関連事業(4)

■その他

▶新製品を市場投入、積極的に拡販活動

世界最高グレードの希土類永久磁石大量生産装置
「マグライズ(Magrise)-500」



▶真空熱処理炉、真空溶解炉、真空蒸着装置など売上



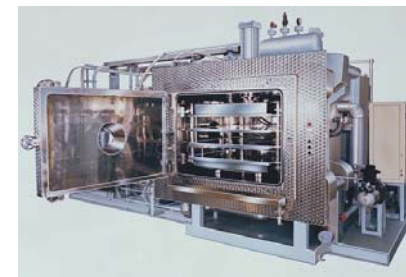
自動車業界向け
真空熱処理炉
FHHシリーズ



真空溶解炉
FMIシリーズ



コンデンサ用
巻取式真空蒸着装置
EWシリーズ



医薬品向け
真空凍結乾燥装置
DFシリーズ

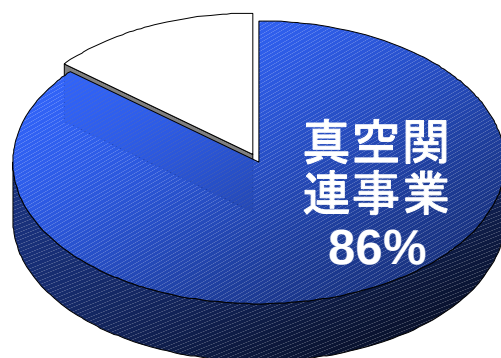
▶設備投資計画延期などの影響で厳しい状況で推移

企業集団の事業セグメント別状況

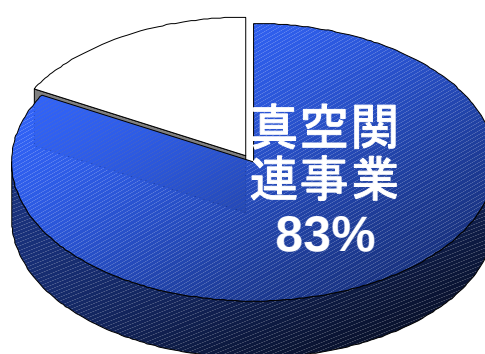
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業利益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空関連事業	2,520	124.1	2,005	97.0	84	1,625	144.3
その他の事業	411	121.7	408	125.4	△1	85	110.1
合計	2,931	123.8	2,412	100.9		1,710	142.1

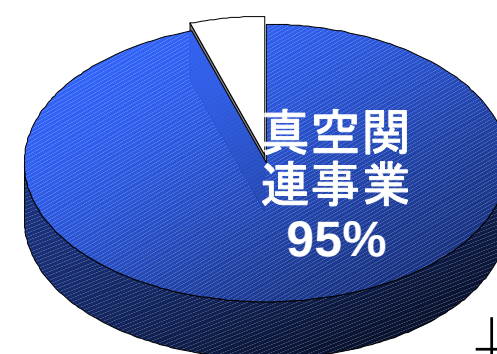
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

その他の事業

■その他の事業

▶アルバックソリューションズで積極的拡販活動を実施

◆材料ビジネス→当初計画未達



液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット

◆制御システム関連→金属、自動車業界関連向け受注堅調

◆分析機器関連

→欧米中心にX線光電子分光分析装置の受注・売上が堅調

X線光電子分光分析装置

PHI5000 VersaProbe™

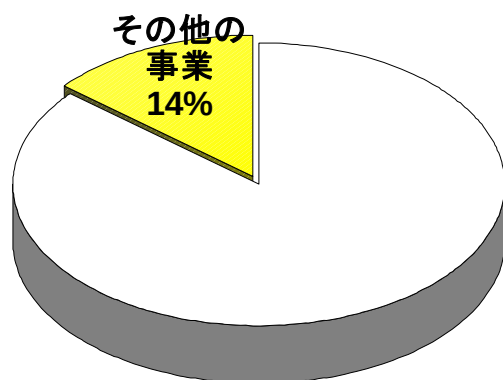


企業集団の事業セグメント別状況

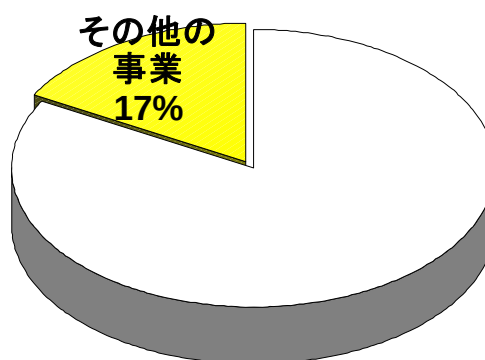
【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業利益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空関連事業	2,520	124.1	2,005	97.0	84	1,625	144.3
その他の事業	411	121.7	408	125.4	△1	85	110.1
合計	2,931	123.8	2,412	100.9		1,710	142.1

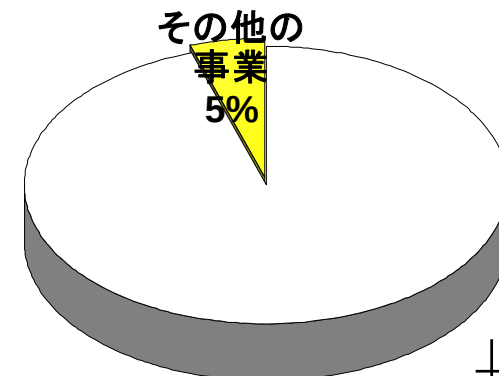
当期受注高



当期売上高



期末受注残高



【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

②設備投資の状況(主なもの)

設備投資の総額:234億円

■ (株)アルバック

FPD等製造装置用建物及び評価装置



■ アルバックマテリアル(株)

電子材料製造用生産設備



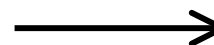
■ アルバック東北(株)

FPD等製造装置用建物、生産設備



■ 日本リライアンス(株)

FPD等製造装置向け部品生産用建物



③資金調達の状況

- 社債、新株式の発行等の資金調達は行っておりません。
- 借入金、社債及びコマーシャル・ペーパー
総額 867億円

事業環境(1)

■ FPD・電子部品及び半導体業界の事業環境

▶ 中期的:

- ◆ 周期的な変動をしながら成長を維持
- ◆ 液晶ディスプレイ、半導体の設備投資の成長は鈍化

▶ 長期的:

- ◆ エネルギー・環境関連市場が急成長

▶ 地域的:

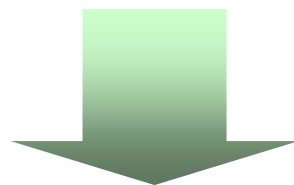
- ◆ 中国の著しい成長が世界に影響
- ◆ インドなど新興国の成長へ期待

事業環境(2)

■ FPD・電子部品及び半導体業界の事業環境

▶ 製造装置業界

- ◆ 市場価格の下落継続
- ◆ 製造装置メーカー間でM&Aなど競争激化
- ◆ 韓国、台湾、中国メーカーが、競合先としてシェアを獲得



厳しい競争環境が加速

■ 中長期の成長戦略

- ▶ 既存のFPD、電子部品、半導体製造装置の商品競争力を高める。
- ▶ FPDの次に成長する「4つの柱（ポストFPD戦略）」を積極的に推進。

4つの柱

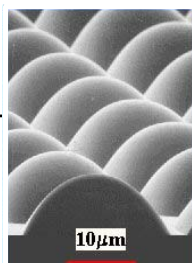
- ◆ デジタル家電用電子部品製造装置
- ◆ エネルギー・環境関連製造装置
- ◆ 中国市場
- ◆ カスタマーサポート事業とOEM生産

①ポストFPD戦略

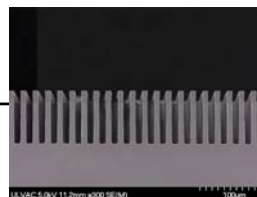
■ デジタル家電用電子部品製造装置

▶ 化合物半導体
(発光ダイオード)

▶ MEMS



マイクロレンズアレイ



シリコンディープエッチング



エッチング装置



光学薄膜用
スパッタリング装置

▶ 光学薄膜デバイス

▶ 高密度実装



スパッタリング装置

①ポストFPD戦略

■ エネルギー・環境関連製造装置

▶ 太陽電池製造装置



薄膜太陽電池実証ライン

▶ ハイブリッド・カー用部品

◆ 永久磁石 (モータ)

◆ コンデンサ

◆ パワー半導体

真空蒸着装置



スパッタ装置



イオン注入装置



真空焼結炉



真空溶解炉

①ポストFPD戦略

■ 中国市場



完成した愛発科(中国)投資有限公司の建物
(通称アルバックチャイナ)

製造装置、コンポーネントの販売・生産を軌道に。

①ポストFPD戦略

■ カスタマーサポート事業とOEM生産

▶ ターゲット材料、消耗部品、部品洗浄、リサイクル



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



プラズマ溶射による
防着処理



精密・再生洗浄部品



陽極酸化ライン

▶ OEM生産



光学膜OEMライン

②コストダウン戦略

■ 生産改革の推進

- ▶コスト競争力の向上

■ もの作りの推進

- ▶グループ内垂直統合と内製化
- ▶「開発、標準化から市場投入」
- ▶共通化、標準化推進、完全標準装置の量産方法確立、カスタムメイド体制からの脱却

■ 攻守織り交ぜた施策

- ▶追加原価の発生や納期遅延を抑制
- ▶工期短縮、コストダウンなど

→収益力の向上

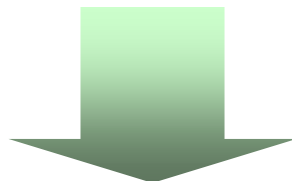
③受注拡大戦略

- FPD、半導体、コンポーネント、一般産業機器、分析機器など既存分野
 - ▶ 新製品開発で商品競争力を高め、シェアアップ
- 「ポストFPD戦略」を推進
 - ▶ デジタル家電関連
 - : LED、パワー半導体など「エネルギーデバイス」の受注拡大
 - ▶ 太陽電池製造装置
 - : 薄膜系、結晶系、化合物系に積極的に進出
 - ▶ 東南アジア、インド、欧米、中東でシェア拡大
- アルバックソリューションズ、プロセス技術やラインを提供するトータルなソリューション

④財務戦略

■ 収益力の向上、運転資金の圧縮などに一段と注力

▶ 営業活動によるキャッシュ・フローの獲得



◆新商品開発戦略の研究開発投資

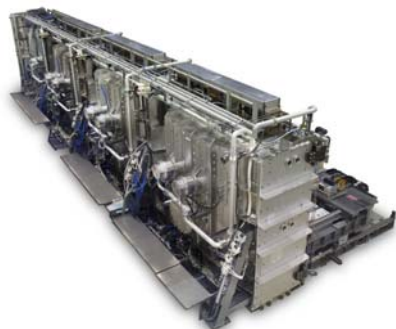
◆グローバル化戦略の設備投資

▶ 今後の成長に向けた研究開発投資は営業活動のキャッシュ・イン・フローで賄う

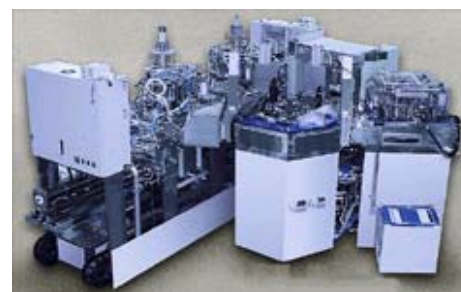
⑤新商品開発戦略

■ 独創的で最先端、高収益性が期待できる新製品を開発

▶ FPD分野



大型基板ディスプレイ製造装置



次世代ディスプレイ製造装置(有機ELなど)

▶ エネルギー・環境関連分野

◆ 太陽電池製造装置



薄膜太陽電池実証ライン

◆ ハイブリッド・カー用部品の製造装置

⑤新商品開発戦略

■ 独創的で最先端、高収益性が期待できる新製品を開発

▶ 半導体分野

◆ 不揮発メモリ製造装置



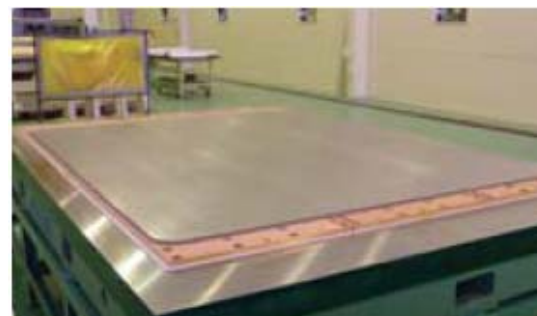
◆ LED、MEMS、高密度実装をソリューションで提供

▶ コンポーネント

◆ ドライポンプ、真空計など

▶ 材料部門

◆ FPD用スパッタリング ターゲット材料



大型スパッタリング装置用ターゲット材料

⑥グローバル化戦略

中国、韓国、台湾など東アジア中心に事業拡大。
米国、欧州、インド、ロシアなどの市場開拓を推進。

■中国

- ▶ 生産体制、製品品質向上、コストダウン
- ▶ 統括管理会社を中心に事業展開



愛発科(中国)投資
有限公司



寧波愛発科真空技術
有限公司



愛発科真空技術(蘇州)
有限公司



愛発科東方真空(成都)
有限公司



愛発科自動化科技
(上海)有限公司



愛発科天馬電機(靖江)
有限公司



愛発科中北真空(沈陽)
有限公司

⑥グローバル化戦略

中国、韓国、台湾など東アジア中心に事業拡大。
米国、欧州、インド、ロシアなどの市場開拓を推進。

■韓国

- ▶ 内製化率向上、垂直統合によるもの作りの推進
- ▶ コスト競争力向上



ULVAC KOREA, Ltd. Ulvac Korea Precision, Ltd.

■台湾

- ▶ 生産体制確立、製品品質向上



ULVAC TAIWAN INC. ULTRA CLEAN PRECISION
TECHNOLOGIES CORP.

■今後成長が期待される新興国への進出で更なるグローバル化

真空技術をコア技術として、製造装置や材料、
カスタマーサポートなど総合的なソリューション
を提供するグループとして事業の拡大に努め、
株主各位のご期待に応えてまいります。

連結貸借対照表(資産の部)

【単位:億円】

	第103期	第104期	増 減
流動資産	2,079	1,866	△ 213
固定資産	1,097	1,165	68
有形固定資産	818	938	120
無形固定資産	38	38	0
投資その他の資産	241	189	△ 52
資産合計	3,176	3,031	△ 145

資産の部: 145億円減

(主な要因)

◆たな卸資産 148億円減

◆受取手形、売掛金 112億円減

◆有形固定資産 120億円増

(事業拡大のための設備投資を実施。)

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

【単位：億円】

	第103期	第104期	増 減
(負債の部)			
流動負債	1,695	1,508	△ 187
固定負債	537	604	67
負債合計	2,232	2,112	△ 120
(純資産の部)			
純資産合計	944	919	△ 25
負債純資産合計	3,176	3,031	△ 145

負債の部 : 120 億円減

- ◆支払手形及び買掛金 82億円減
- ◆未払金 43億円減

純資産の部: 25 億円減

- ◆当期純利益 36億円計上
- ◆配当金 20億円支払い
- ◆評価・換算差額等 36億円減

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

連結損益計算書

【単位：億円】

	第103期 (H19/6期)	第104期 (H20/6期)	前期比
売上高	2,392	2,412	21 (+0.9%)
経常利益	161	51	-110 (-68.5%)
当期純利益	73	36	-37 (-50.8%)

【()内は増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

貸借対照表

	第103期	第104期	増 減
(資産の部)			
流動資産	1,325	1,196	△ 128
固定資産	852	952	100
有形固定資産	545	623	78
無形固定資産	27	27	△ 0
投資その他の資産	280	303	23
資産合計	2,177	2,149	△ 28
(負債の部)			
流動負債	1,162	1,076	△ 86
固定負債	421	472	52
新株予約権付社債	155	155	0
長期借入金	210	249	39
退職給付引当金	49	55	6
その他	6	13	7
負債合計	1,583	1,549	△ 34
(純資産の部)			
株主資本	580	594	14
評価・換算差額等	14	6	△ 8
純資産合計	594	600	6
負債純資産合計	2,177	2,149	△ 28

【単位：億円】

資産の部

:28億円減

負債の部

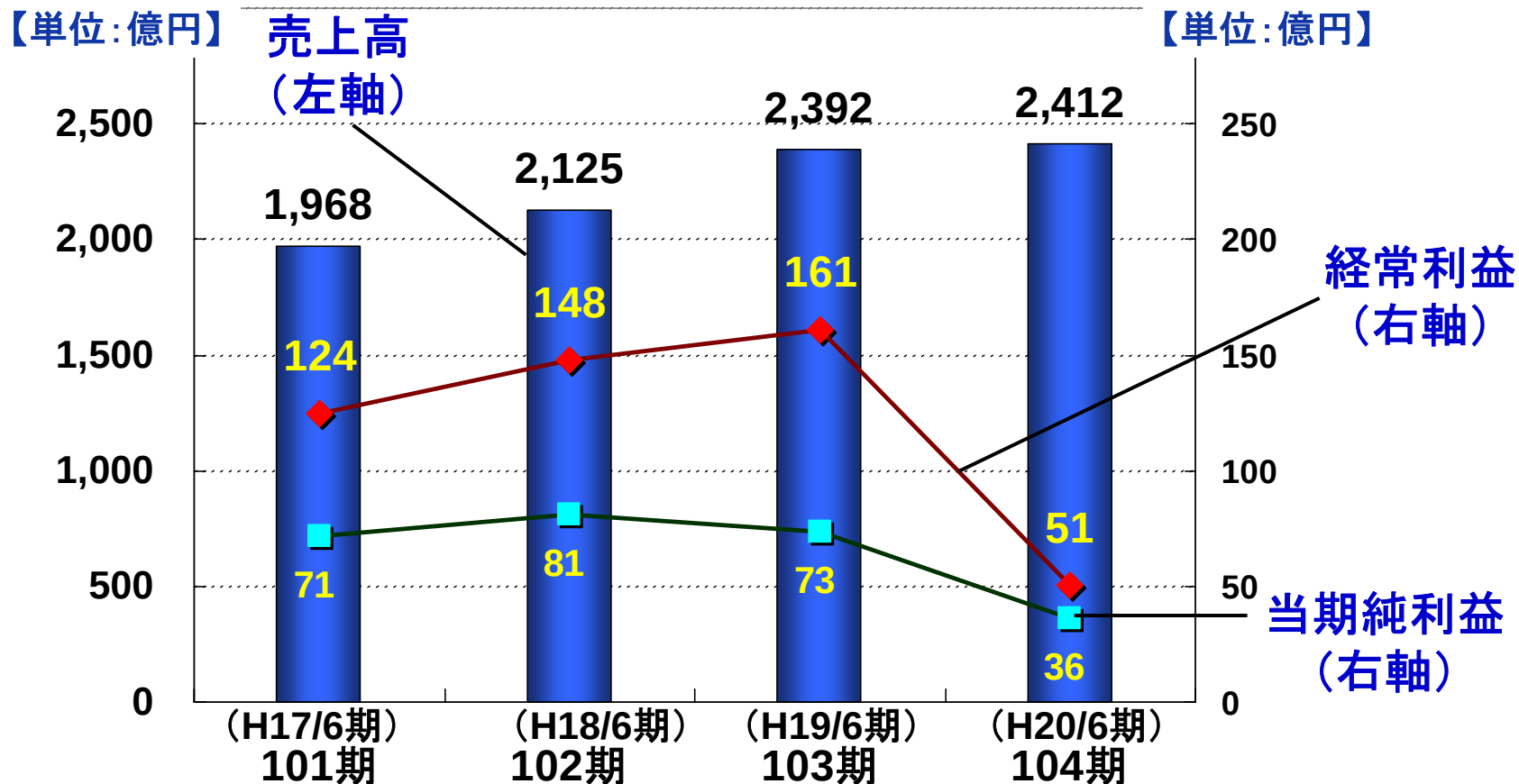
:34億円減

純資産の部

:6億円増

【記載された金額は四捨五入しております
ので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

業績の推移(連結)



■第104期の業績悪化理由

- ▶半導体などの収益性の高い一部の装置で設備投資計画が延期
- ▶材料費の高騰と販売価格下落に対しコストダウン追いつかず

第104期の業績悪化に対する対応策

■対応策

▶業績向上緊急対策本部設置

▶固定費削減

◆役員報酬、事業部長給与カット

(代表取締役:20%、役付取締役:15%
取締役:10%、事業部長:5%)

◆経常経費の削減(光熱費、交通費など)

◆残業管理の徹底で割増手当で削減 (ノー残業デーの徹底含)

◆外注費の削減

▶コストダウンのさらなる徹底

収益性改善のための今期の重点施策

■ 利益率のアップの為の体質改善

- ▶ 一般産業機器などの特型(カスタムメイド)依存から脱却
- ▶ 高利益率が確保できる競争力のある商品を急ピッチで開発(特に「その他の事業」で)
- ▶ 固定費のスリム化

■ グループ各社の構造改革

- ▶ グループとしての構造改革実施
 - ◆ 開発効率とカスタマーサポート体制向上のためアルバックマテリアルの事業を再構築(平成20年10月から)
 - ◆ 経営効率アップのため、台湾の製造子会社と販売会社の合併(平成21年1月から)
- ▶ 各社ごとに新商品開発、新市場開拓に注力

決議事項

第1号議案

剰余金の処分の件

第1号議案 剰余金の処分の件

■ 期末配当に関する事項

- ▶ 第104期の期末配当につきましては、当期の業績や次期の見通し等を勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

①配当財産の種類 金銭

②配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき21円(連結配当性向25.0%)

配当総額 900,973,563円

③剰余金の配当が効力を生じる日 平成20年9月30日

■ その他の剰余金の処分に関する事項

①減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 3,000,000,000円

②増加する剰余金の項目とその額

別途積立金 3,000,000,000円

配当方針と今期末予定配当について

■配当方針

- ▶ 当社では、株主の皆様への利益配分を最も重要な政策の一つとして認識し、連結配当性向を主要な指標と位置付け、連結業績や財務体質の強化などを総合的に勘案のうえ、業績に連動する配当の考え方を取り入れ、連結当期純利益の約20%の配当性向を維持するよう努力する方針です。

■平成21年6月期の期末配当

- ▶ 平成21年6月期は、1株当たり35円（連結配当性向約20%）の配当を予定しています。

決議事項

第2号議案

定款一部変更の件

定款一部変更の件

当社の事業内容の多様化と今後の事業展開に備えるため下記を変更

現行定款	変更案
(目的) 第2条 3.金属セラミックス有機物商品の製造販売並びにこれらの輸出輸入	(目的) 第2条 3.<u>金属商品、セラミックス商品および有機物商品の製造販売並びにこれらの輸出輸入</u>
(新設)	8.<u>土木、建築工事の請負業務並びに建築物の販売</u>
(新設)	9.<u>特殊材料ガス等の販売</u>
(新設)	10. <u>太陽光発電等によるエネルギーの販売</u>
(新設)	13.<u>資金調達に関する仲介およびコンサルタント業務</u>

決議事項

第3号議案

取締役12名選任の件

第3号議案 取締役12名選任の件

[取締役候補者(12名)]

中村 久三

諏訪 秀則

山川 洋幸

常見 佳弘

砂賀 芳雄

五戸 成史

末代 政輔

小田木 秀幸

平野 裕之

山元 正年

中村 孝男

宇治原 潔

(社外取締役)

[非改選(5名)]

藤山 潤樹

加藤 丈夫

佐藤 孔史

本吉 光

中野 佳信

(社外取締役)

決議事項

第4号議案

監査役1名選任の件

第4号議案 監査役1名選任の件

[監査役候補者(1名)]

待鳥 啓信

[非改選(4名)]

大井 宣夫

原 稔 (社外監査役)

浅田 千秋 (社外監査役)

小宮路 幸一
(社外監査役)

決議事項

第5号議案

役員賞与の支給の件

第5号議案 役員賞与の支給の件

当期末時点の社外取締役2名を含む取締役18名に対し、当期の業績等を勘案して、社外取締役分2百万円を含め、役員賞与総額1億3千9百万円を支給することといたしたいと存じます。

なお、役員賞与の支給額につきましては、役位ごとの役員報酬額に経常利益率と連動した指数を乗じた金額となっております。

本日は、まことに
ありがとうございました。

ULVAC

株主懇談会

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ（FPD）・半導体・電子部品業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品の市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆ 本資料における表示方法について

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

■ 業績予想

▶ 2009年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

事業環境

■ ポジティブ要因

- ▶ 液晶ディスプレイなどFPD関連の売上増
- ▶ 太陽電池やエネルギー・環境関連の設備投資活発化
 - ◆ 薄膜太陽電池一貫ラインの引き合い、受注急拡大
 - ◆ 薄膜太陽電池以外の化合物系、結晶系の事業拡大の可能性
 - ◆ LED、希土類磁石向け設備の受注拡大

■ ネガティブ要因

- ▶ メモリなど半導体分野は厳しい状況が継続
- ▶ 液晶ディスプレイの受注は一巡、安定成長へ
 - ◆ 中小型パネルラインで生産調整、納入延期の動き
- ▶ 継続的な価格プレッシャー

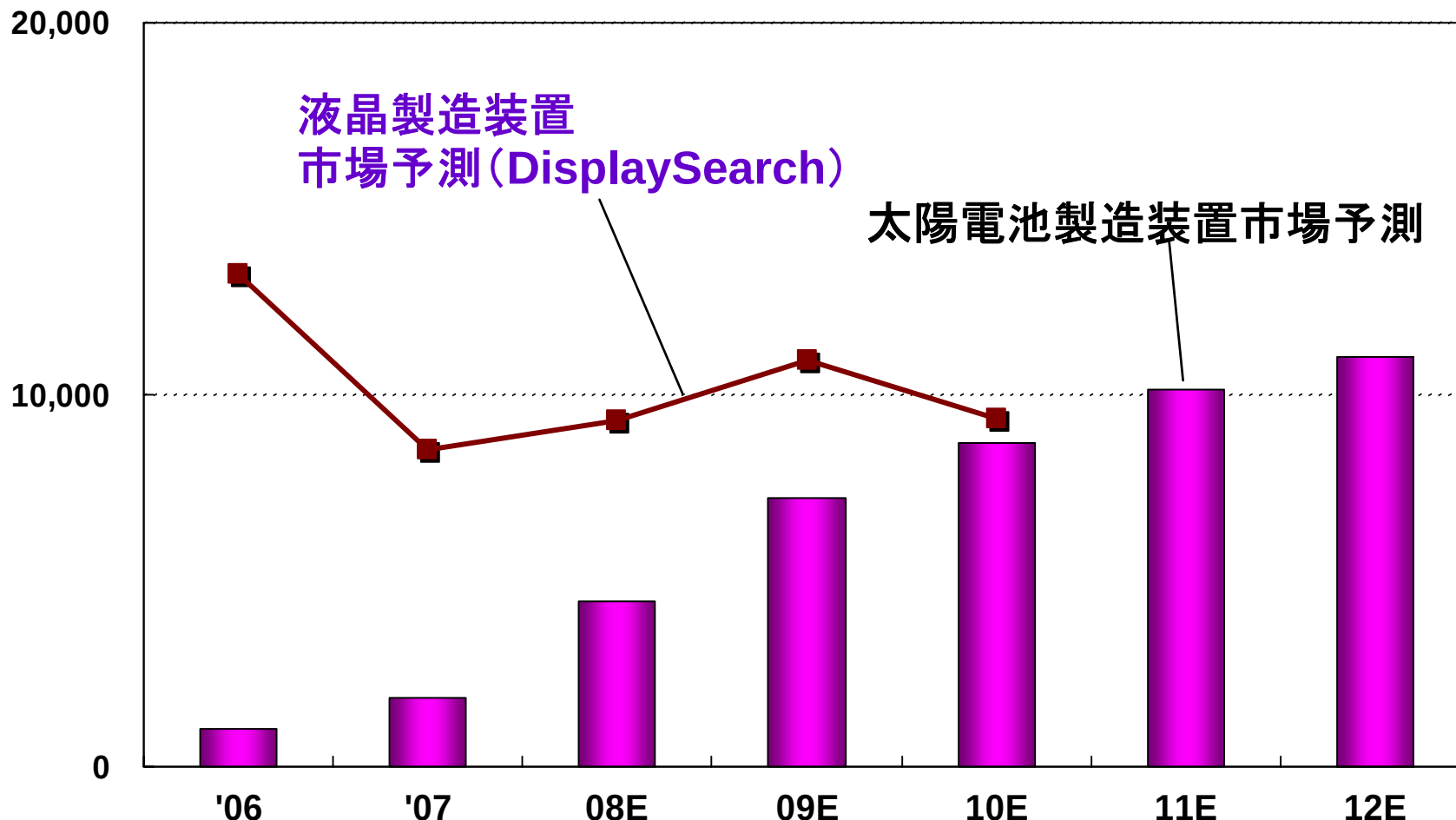
太陽電池の種類と変換効率

主材料	製法	種類	シェア	変換効率
シリコン系	バルク モジュール	単結晶Si	83%	13～15%
		多結晶Si		
	HIT	単結晶Si/ アモルファスSi	4%	16～18%
	薄膜 モジュール	アモルファスSi	10%	a-Si 6～8%
タンデム型 9～12%				
化合物系		CI(G)S		9～12%
CdTe(カドミウムテルル)		9～11%		
色素有機		色素増感型	—	

出所: 日本政策投資銀行より(2008年4月)

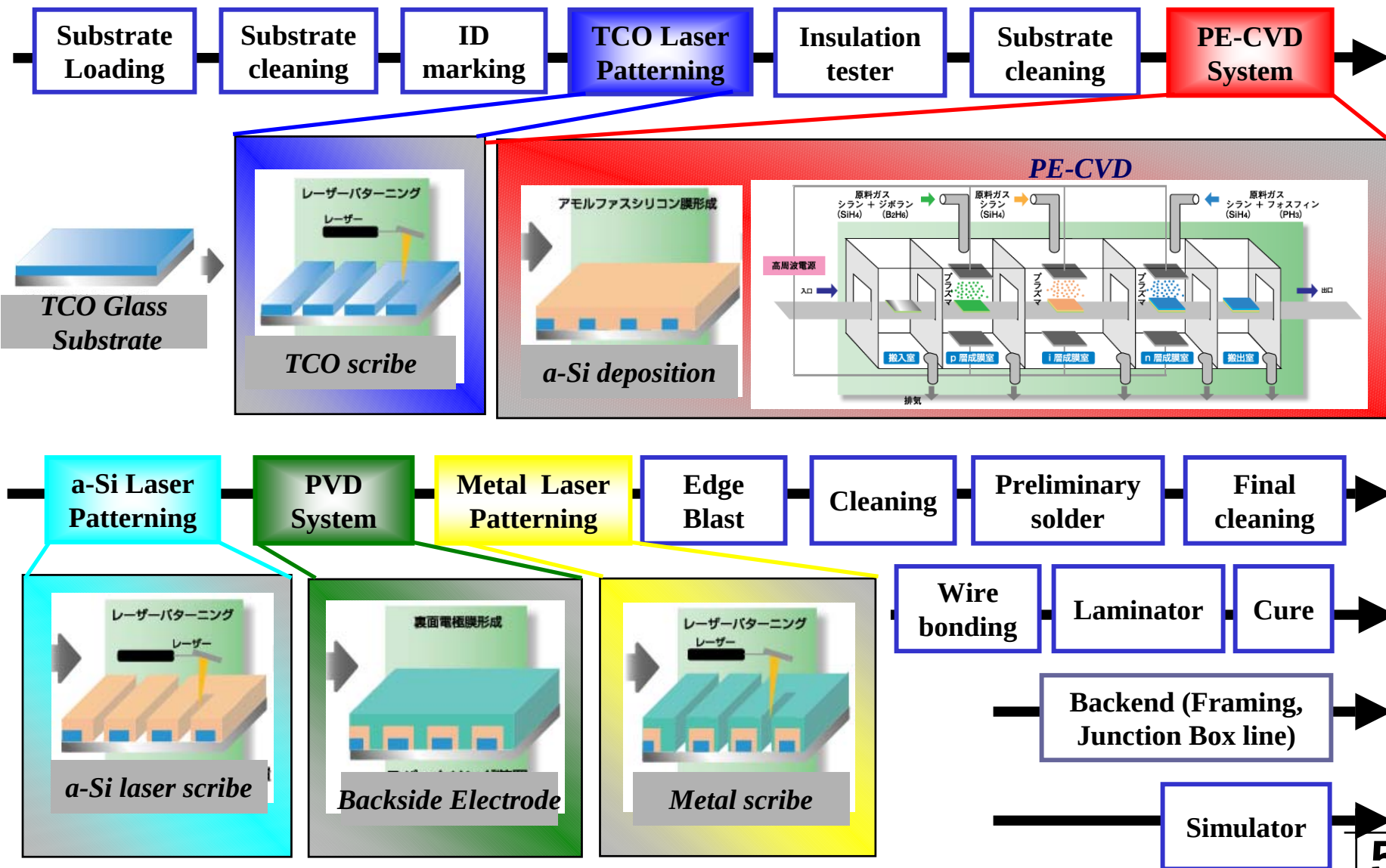
太陽電池製造装置の市場規模予測

【単位: 億円】



出所) 太陽電池製造装置は野村證券金融研究所資料より
液晶製造装置はDisplaysearchより

薄膜シリコン太陽電池製造プロセス



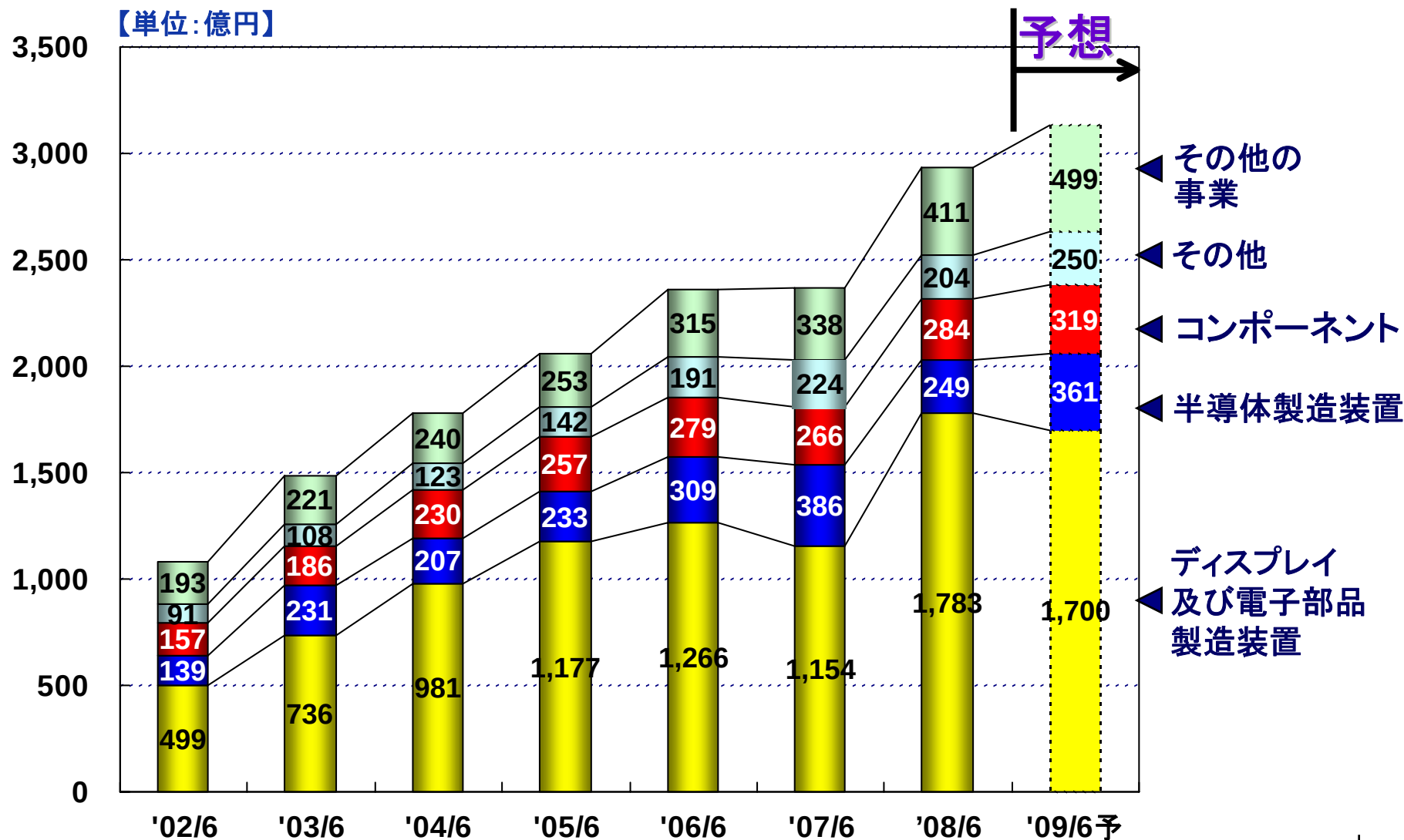
09/6期予想

【単位:億円】

	06/6期	07/6期	08/6期	09/6期予	
				第2四半期 累計期間	通期
受注高	2,360 (+14%)	2,368 (+0%)	2,931 (+24%)	1,630 (+40%)	3,130 (+7%)
売上高	2,125 (+8%)	2,392 (+13%)	2,412 (+1%)	1,360 (+17%)	3,000 (+24%)
営業利益	148 (-3%)	166 (+12%)	91 (-45%)	39 (+6%)	150 (+65%)
営業利益率	7.0%	6.9%	3.8%	2.9%	5.0%
経常利益	148 (+19%)	161 (+9%)	51 (-69%)	28 (+19%)	120 (+137%)
経常利益率	7.0%	6.7%	2.1%	2.1%	4.0%
当期純利益	81 (+13%)	73 (-10%)	36 (-51%)	9 (-61%)	74 (+105%)

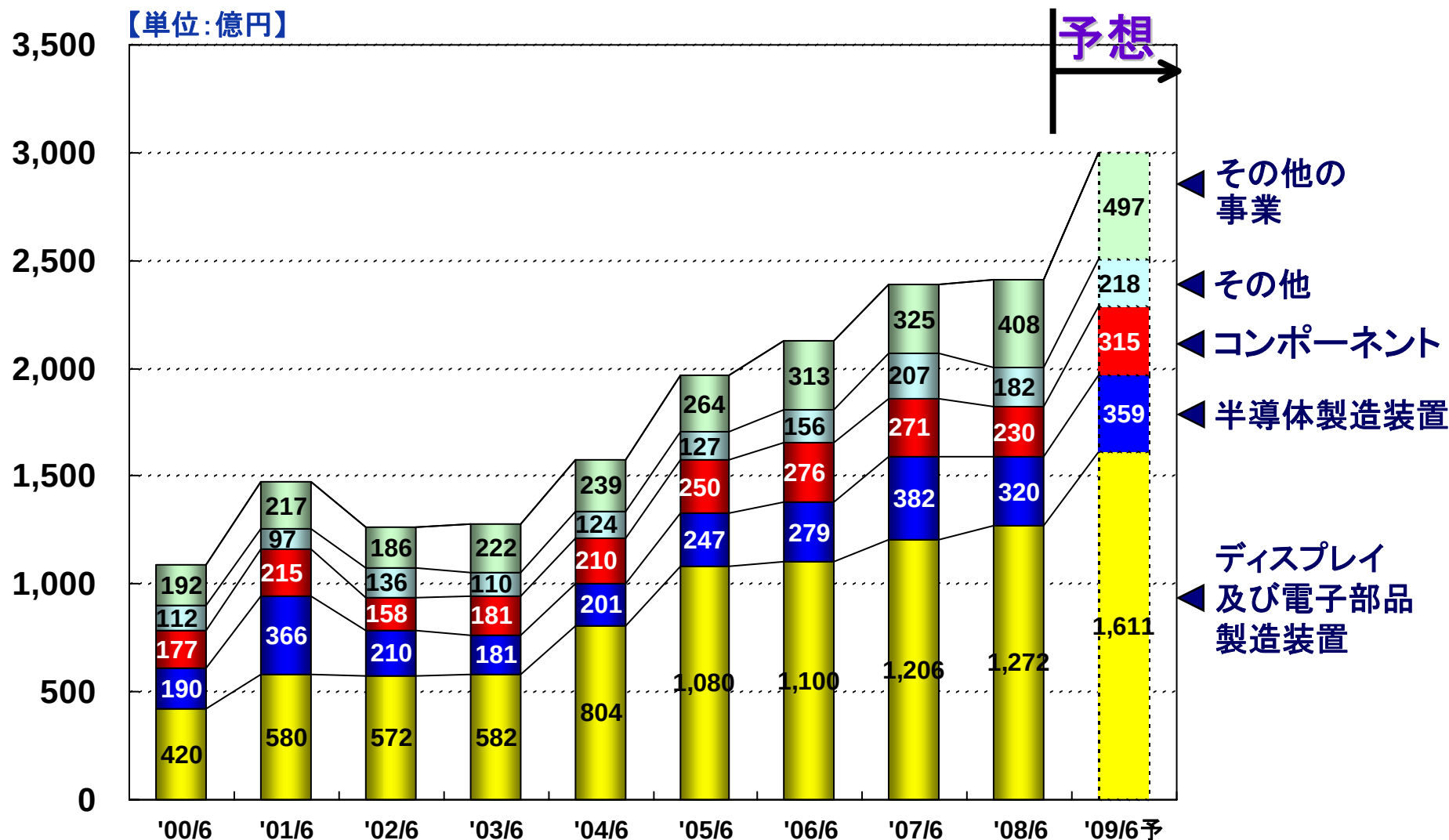
【（ ）内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

品目別受注高実績・予想



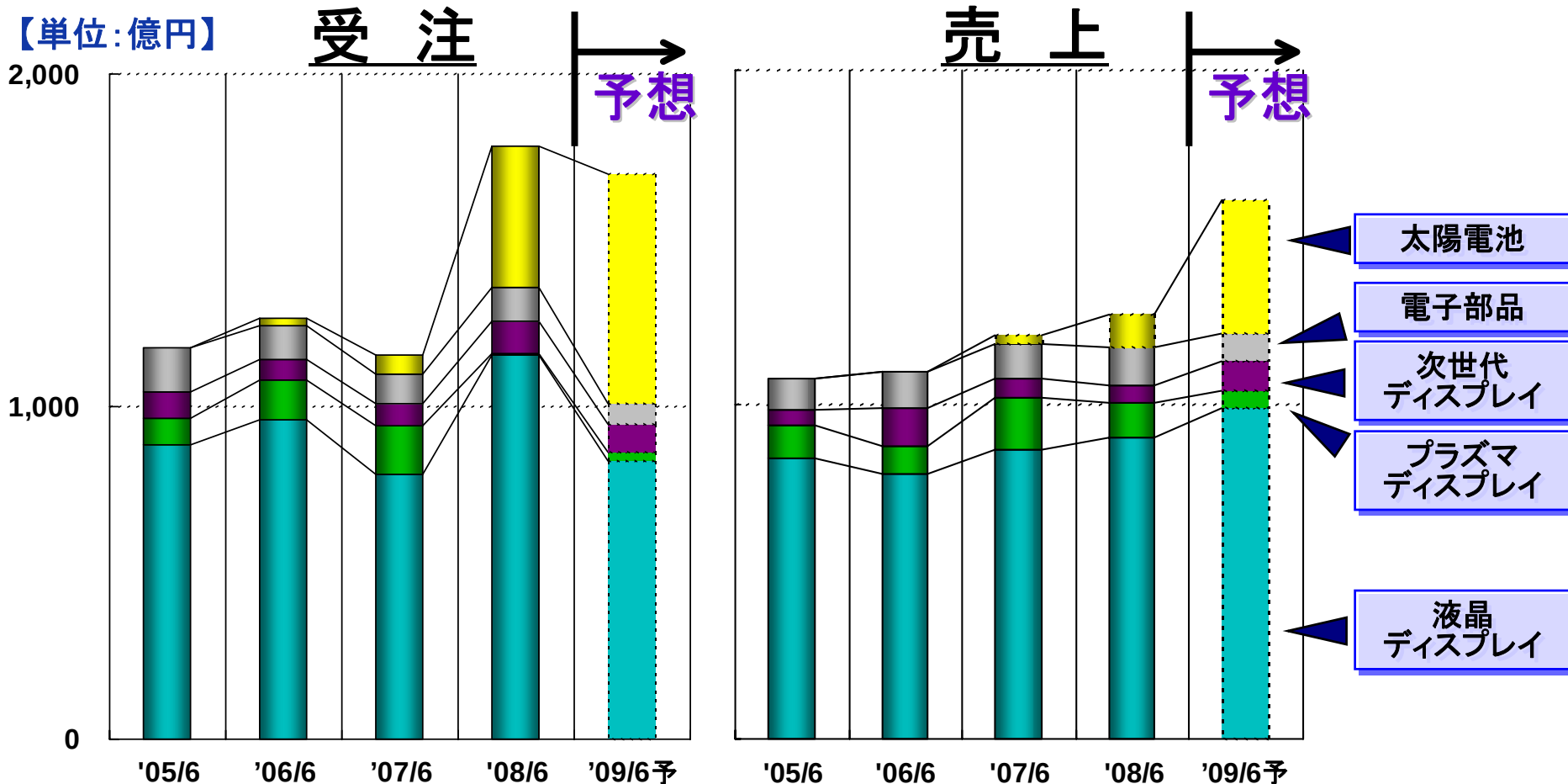
【小数点以下は四捨五入】

品目別売上高実績・予想



【小数点以下は四捨五入】

ディスプレイ及び電子部品製造装置の推移・予想

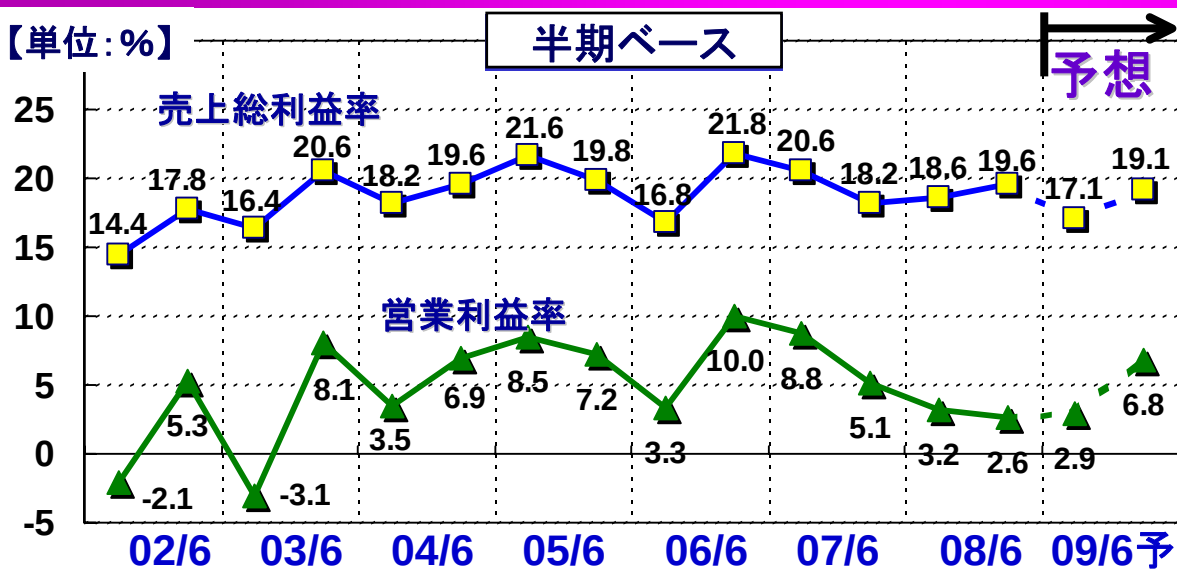


足元の受注環境

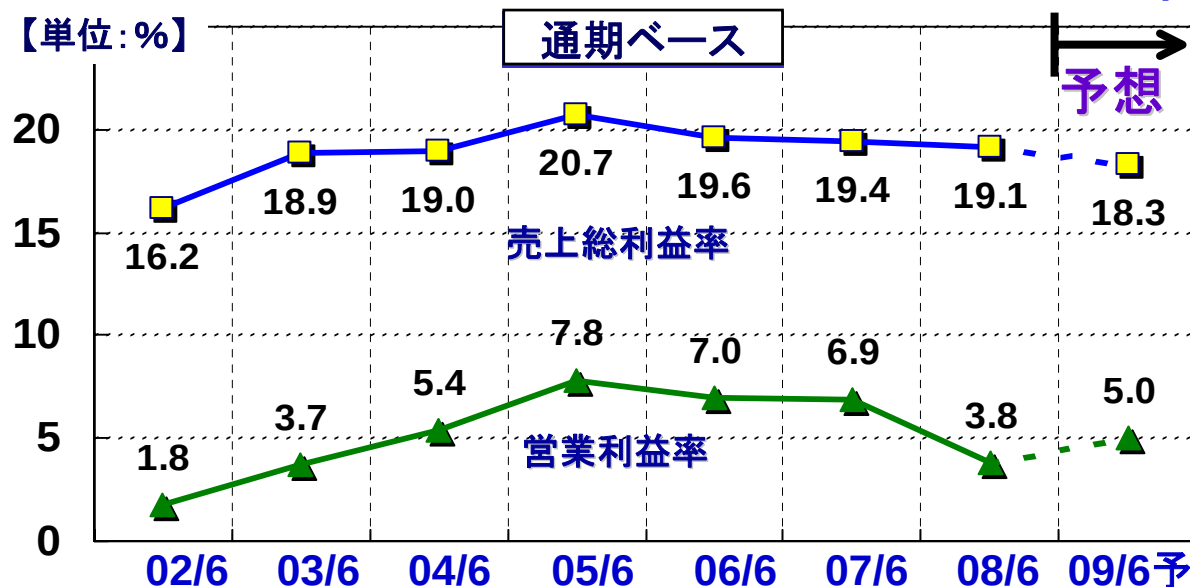
- ◆韓国、台湾の液晶ディスプレイの設備投資は一服。
- ◆太陽電池は、薄膜太陽電池一貫ラインを中心に大幅受注増を見込む。
- ◆プラズマは縮小傾向、有機ELなど次世代ディスプレイの伸びが鈍化。

利益率の推移・予想

【単位：%】



【単位：%】



09/6期予想

上期

- ・半導体は期首受注残が少なく売上減少。利益率低下。
- ・FPD製造装置など売上減少で利益率低下。

下期

- ・G8の売上が増加し量産効果とコストダウンで利益率向上。
- ・太陽電池一貫ライン売上増で利益率向上。

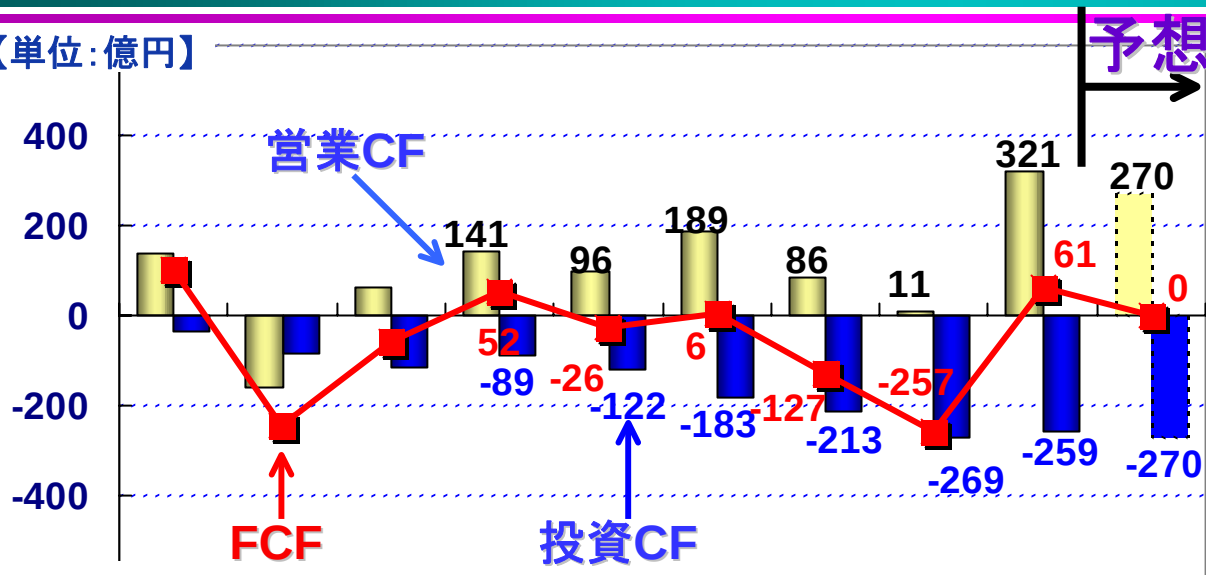
通期

- ・生産改革(内製化、標準化など)の推進で収益力アップ
- ・固定費のスリム化で利益率向上

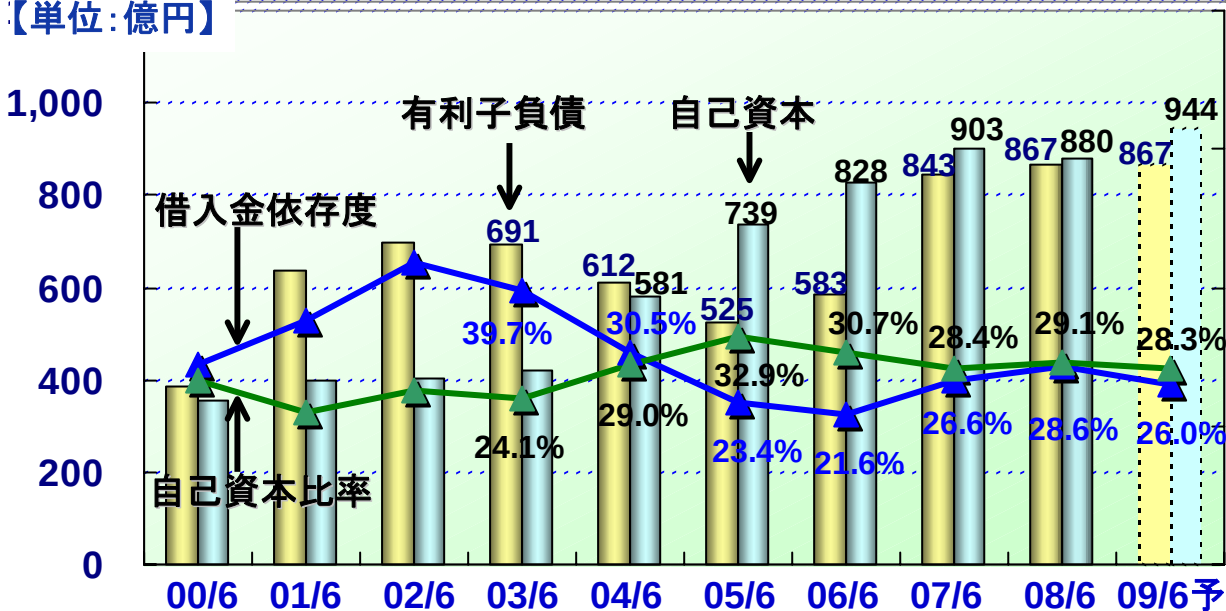
【小数点以下第2位は四捨五入】

キャッシュ・フローと有利子負債の状況(実績・予想)

【単位:億円】



【単位:億円】



【小数点以下第2位は四捨五入】

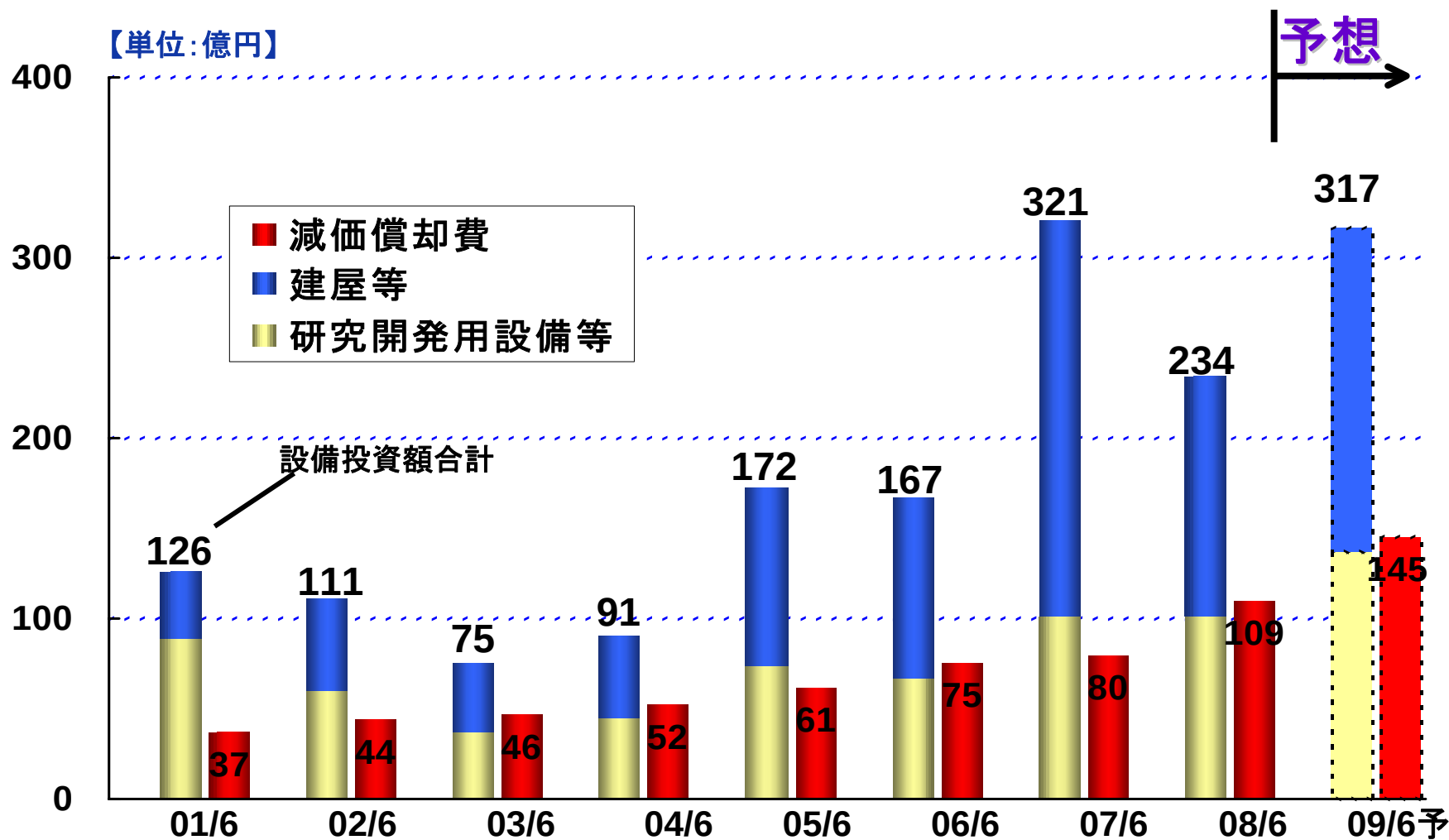
営業CF: 270億円

- ▶ 資金効率の向上
- ◆ たな卸資産の増加抑制
- ◆ 売掛債権の回収促進
- ◆ 前受金の確保

投資CF: △270億円

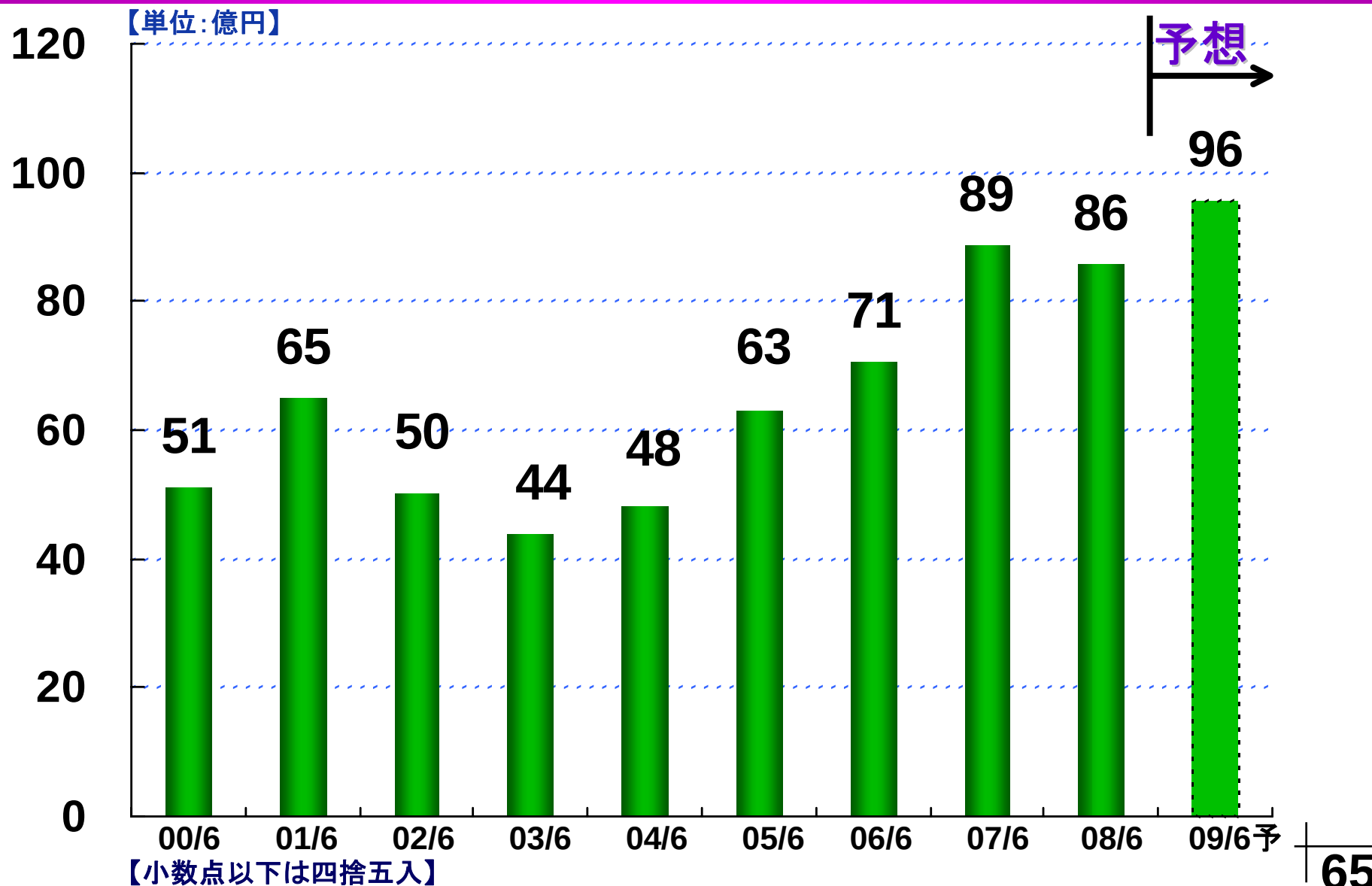
- ▶ 成長戦略投資を実施
- ◆ 研究開発投資

設備投資、減価償却費の推移



【小数点以下は四捨五入】

研究開発費の推移



今後の主な新設工場、新拠点

■日本リライアンス新棟



◆2008年8月 竣工
(横浜市)

■千葉超材研究所



◆2009年10月竣工予定
(千葉県富里市)

■ポストFPD製造装置試作開発拠点



◆第2期:
2008年10月 竣工予定
(茅ヶ崎市)

■大型液晶工場対応サポート拠点新設



◆2008年12月 竣工予定
(和歌山県橋本市)

- 工場新設
- 工場増設
- サービス拠点新設

09/6期 業績予想(まとめ)

- 太陽電池が他を補完し受注は増加
→3,130億円(+7%)
- 液晶ディスプレイ関連の受注残が
寄与し売上が大幅増 →3,000億円(+24%)
- 太陽電池の売上寄与が少、半導体の売上鈍化
などがあり、利益率は回復途中
→営業利益率 5.0%

■ 業績概要及び予想

▶ 2009年6月期連結業績予想

▶ 事業戦略

代表取締役社長 諏訪秀則

09/6期重点施策(1)

- 太陽電池用装置ビジネスを大きな柱にする
 - ▶ 温暖化対策として再生可能エネルギーのニーズ高まり、大幅な受注増
 - ▶ 薄膜Si太陽電池一貫ライン
 - ◆ デバイス性能、生産量の保証、完全標準化装置の提案型商品、従来と異なった生産形態(計画生産)
- 新たなビジネスモデル
・もの作り
- 利益率のアップの為の体質改善
 - ▶ 09/6期は再び上昇軌道に乗せる転換の年度
 - ◆ 一般産業機器などの特型(カスタムメイド)依存から脱却
 - ◆ 高利益率が確保できる競争力のある商品を急ピッチで開発(特に「その他の事業」で)
 - ◆ 固定費のスリム化

09/6期重点施策(2)

■ グループ各社の構造改革

▶ グループとしての構造改革実施

- ◆ 開発効率とカスタマーサポート体制向上のため
アルバックマテリアルの事業を再構築(08年10月から)
- ◆ 経営効率アップのため、台湾の製造子会社
と販売会社の合併(09年1月から)

▶ 各社ごとに新商品開発、新市場開拓に注力

■ フリー・キャッシュフローの黒字化

- ▶ 運転資金の圧縮
- ▶ 研究開発投資は設備売却と一体管理
- ▶ 売掛金手持月数、たな卸し手持ち月数の目標値を
設定、管理。

中長期の事業戦略

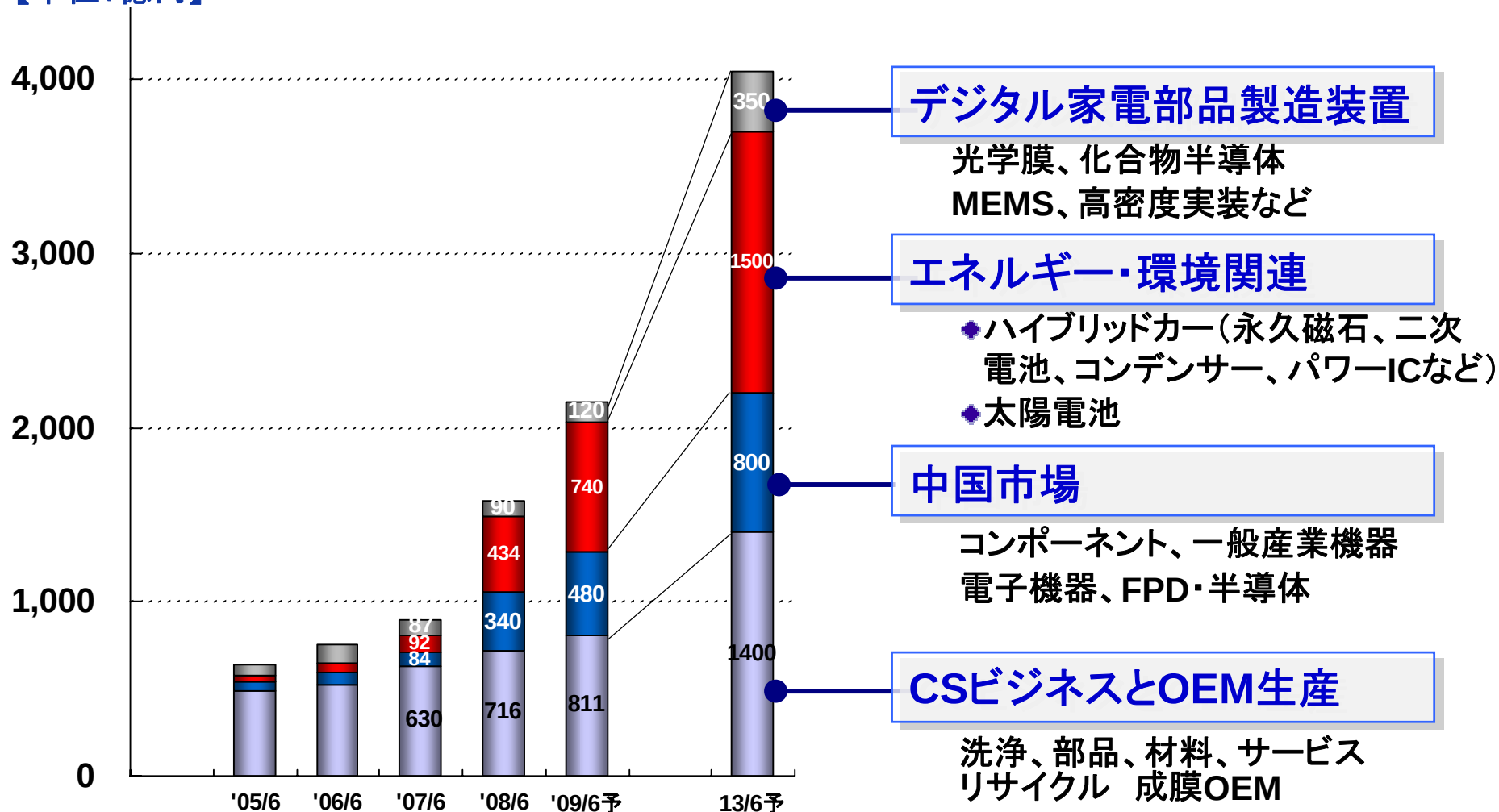
■ FPDの設備投資の成長は鈍化。

ポストFPD戦略を強力に推進し、受注4000億円を目指す。

特に、太陽電池用装置などのエネルギー・環境ビジネスやターゲット材料のリサイクルなどCSビジネスに注力する。

ポストFPD戦略(受注目目標)

【単位: 億円】



【上記の各項目の目標受注額は一部重複して合算されています。また、目標受注額は事業規模を判断するための参考値で、当社の連結受注額に合算されない額も含まれています。】

事業戦略まとめ

■ 今期(09/6期)

- ▶ 太陽電池用装置ビジネスを大きな柱に育成
- ▶ 利益率を増加軌道に乗せる体質改善の年度
- ▶ 持続的成長の為にフリーキャッシュ・フローの黒字化と積極的投資の維持

■ 中長期

- ▶ ポストFPD戦略の強力な推進で4,000億円をクリア

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック

ULVAC

本日は
ありがとうございました